

## 新たな文化・芸術振興の指針の必要性

近年の文化を取り巻く環境の変化を踏まえ、また、平成4年に策定した「広島県文化振興ビジョン」の成果を継承し、より一層発展させるとともに、残された課題を解決するため、21世紀にふさわしい新たな文化・芸術振興に関する指針が必要となっています。

### 1 文化を取り巻く環境の変化

現在、我が国は、政治・経済を始め社会の各分野において、大きな歴史の転換期にあります。この10年間、文化を巡っても様々な社会潮流の変化が見られました。

#### 価値観の多様化と変革の時代

戦後のめざましい高度経済成長により世界の経済大国となった我が国は、極めて高い所得水準を実現するに至りました。物質的な豊かさが達成され、価値観の多様化が進む中、人々が精神的な安らぎや潤いのある生活など心の豊かさを重視する傾向は年々強まり、一人ひとりが多様な価値観に基づき、自己実現を図るライフスタイルは定着しつつあります。

一方では、高度経済成長を支えた経済効率最優先の日本型社会経済システムにより、現代社会には、環境問題をはじめとする様々なひずみをもたらされ、構造改革や行財政改革など大きな変革を迫られている中、人々の間には将来に対する不安が募り、社会全体の活力の低下が懸念されています。

このような時代において、文化は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするものであると同時に、多様な価値観が共存する成熟社会にあっては、共感する心、他者への寛容さを育むものとして、その重要性が一層増してきています。

また、「先行き不透明な時代」と言われる今日、文化は、未知の課題解決のための創造力・想像力を育むとともに、社会に活力をもたらすものとしてその役割が期待されているところです。

#### 高度情報社会の到来

インターネットやブロードバンドの普及に象徴されるIT（情報通信技術）の急速な進歩により、情報の地域間格差は解消され、地方においても多種多様な情報の受発信が可能となり、また、デジタル技術の飛躍的向上

は、CG（コンピュータ・グラフィックス）をはじめ、新しい表現手段を創出し、創造活動の範囲は大きく拡充されつつあります。

しかしながら、こうした電腦空間への過度の没入は、人間関係を希薄にし、特に若い世代において、実体験の不足や現実社会への適応能力の低下をもたらす一因となるなど、情報化の負の側面も指摘されています。

このような高度情報社会にあっては、情報の効果的な発信や、新しい技術の有効活用を促す創造力を養うとともに、コミュニケーションの増進や他人を思いやる心を育むという面で、文化の役割が大きく見直されているところです。

### グローバル化の進展

今日、経済活動をはじめ、様々な分野においてグローバル化が進み、人・物・情報の交流は地球規模で日常的に行われるところとなり、他の国、民族の人々とふれあう機会は飛躍的に拡大してきています。

他方、グローバル化の進展による国際競争の激化に伴い、各分野で導入されているグローバル・スタダードは、公平性を担保する一方で、国際社会を同質化させ、その多様性を薄めていくという危険性をはらんでいると考えられます。

こうした中、文化による国際交流は、異なる歴史的背景や価値観を持つ国、民族との相互理解を深め、多様な文化の共存による世界平和の礎を築くものとして、その積極的な推進が望まれているところです。

### 地方分権の時代

地方分権推進一括法の成立を契機として、市町村合併をはじめ地方分権の動きが急速に進む中、活力ある地域づくりのため、地域の自立とアイデンティティーの確立が求められています。

一方で、価値観の多様化、少子高齢化、都市化・過疎化の進展など社会の急激な変化は、地域コミュニティの質的な変容を促し、地域社会の連帯感希薄化しつつあります。

このような中で、地域固有の歴史と風土に育まれてきた文化や、住民参加の文化活動は、郷土への誇りと愛着を深め、地域住民共通のよりどころとして、個性あふれる豊かな地域づくりに大きな役割を担うものと期待されています。

### 文化の意義、役割の再評価

「物の豊かさから心の豊かさへ」という人々の志向の変化を背景として、これまで文化の意義、役割については、心に安らぎや潤いをもたらす、あるいは文化を通じて自己実現を図るなど、主として個人の生活の質の向上という観点から語られてきました。

一方で，人と人との共感の涵養，人間の創造力・想像力の育成など，文化が本来的に持つ意義，役割は，活力ある社会の実現，経済の活性化，個性豊かな地域づくり，さらには世界平和の実現に至るまで，社会全体に広がりを持っており，その重要性に対する再評価の機運が高まっているところです。

また，国においては，平成13（2001）年12月に文化芸術振興基本法を制定し，文化芸術の振興に関する施策を総合的に推進することとされました。

## 2 広島県文化振興ビジョン(平成4年11月策定)の成果と課題

広島県では、文化振興ビジョン策定以来、「地域に根ざした『文化交流拠点・広島』を目指して」を基本目標として、県民一人ひとりが主体的に文化を享受できる環境づくりや、県民の自主的な文化活動の活性化などに取り組み、様々な成果が得られましたが、その一方で解決すべき課題も残っています。

### 公立文化施設等の整備

県においては、県立総合体育館（グリーンアリーナ）、県立美術館を拡充整備し、県立歴史民俗資料館、県立歴史博物館とあわせて県民の文化の鑑賞機会を拡充してきました。

また、市町村においても、瀬戸田町民会館（ベル・カントホール：瀬戸田町）、ふくやま芸術文化ホール（リーデンローズ：福山市）、はつかいち文化ホール（さくらぴあ：廿日市市）、しまなみ交流館（テアトロシェルネ：尾道市）をはじめとする文化会館や、広島市現代美術館（広島市）、三良坂平和美術館（三良坂町）、蘭島閣美術館（下蒲刈町）、平山郁夫美術館（瀬戸田町）、ふくやま文学館（福山市）、呉市海事博物館（仮称）（呉市）など地域に根ざした個性あふれる文化施設の整備が進み、地域住民の文化活動の場、文化鑑賞の機会が充実されるとともに、地域文化の積極的な発信が行われています。

### 文化財の指定等と景観づくり

文化財については、草戸千軒町遺跡、冠遺跡群など埋蔵文化財の発掘調査を着実に進め、県立歴史博物館等において、その公開と活用を積極的に行うとともに、有形・無形の文化財等の指定（国指定260件、県指定887件：平成15年2月14日現在）を行っています。また、平成8（1996）年には、厳島神社、原爆ドームが世界遺産に登録されたところです。

このように文化遺産の継承と活用を推進する一方、県立自然公園や中央森林公園の整備などによる豊かな自然景観の形成、竹原や鞆をはじめとする歴史的街並みや歴史的景観の保全により、広島らしい景観づくりが行われています。

### 地域の様々な動き

このほか、地域においては、朝鮮通信使の再現（下蒲刈町）、そばの里づくり（豊平町）、灰塚アースワークプロジェクト（総領町、三良坂町、

吉舎町)など県内各市町村においては、地域固有の歴史や文化を生かした個性豊かなまちづくりが進められています。

また、酒づくりの命とも言える水を守るための上流の森林保全活動(東広島市)や、義務教育への邦楽の導入に伴い行われた調弦、糸替のしやすい「新福山琴」の開発(福山市)などは、従来の文化の枠を超え、環境保全、産業振興へも広がりを見せる新しい動きとして注目されています。

#### 国際交流の推進

国際交流においては、平成6(1994)年には、アジアの国と地域を代表するアスリートがその技と力を競い合う第12回アジア競技大会広島が開催され、大会期間中に行われた選手、関係者と県民との多彩な交流は、草の根の国際化を大きく進展させる契機となりました。

また、平成9(1997)年には、アジアを中心とした開発途上国の人材養成の支援を目的としたひろしま国際プラザを整備し、県民と世界各国の人々との交流の場を拡充しました。

#### 全国的イベントの開催

全国的なイベントとしては、平成11(1999)年に「第11回全国生涯学習フェスティバルin広島(まなびピア広島'99)」,平成12(2000)年に「第15回国民文化祭・ひろしま2000」,平成13(2001)年に「第14回全国健康福祉祭(2001ねんりんピック広島)」,平成14(2002)年には「第15回全国スポーツ・レクリエーション祭(スポレク広島2002)」を開催し、全国の老若男女が県内各地を訪れ、文化・芸術、スポーツを通じた交流を楽しみました。

#### 国民文化祭・ひろしまの開催

特に、「第15回国民文化祭・ひろしま2000」は、市町村、関係団体、ボランティア等の協力を得て、全県的に開催され、ひろしまの多彩な文化・芸術を全国に向けて発信することができました。この開催に向け、文化・芸術の各分野において、すそ野の拡大と技能のレベルアップなどが精力的に図られ、広島県の文化活動の活性化に大きな効果をもたらし、その流れはけんみん文化祭へと受け継がれたところです。

#### 今後の課題

残された課題としては、各地の文化施設が地域の文化の発信、交流拠点として十分に活用されていないこと、高度化、多様化が進む県民の文化ニーズや、国際化、情報化の進展といった時代の変化への対応が不十分であることなどがあげられます。